

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

博士論文審査報告書

論文題目

原題名 Original Title	ホームレスの高齢者における再発予防に資するソーシャルキャピタル —日本の山谷及び釜ヶ崎の事例からの分析—
英訳 In Japanese	Social Capital Contributes to preventing returns to homelessness among the Older People -Case Study of Sanya and Kamagasaki in Japan-

申請者

氏名 Name	姓 Last Name 岡本	Middle Name	名 First Name 菜穂子
学籍番号 Student ID	4013S3055		

2023年 1月

1. 本論文の主旨

1-1. 研究が目指す目標と事例研究の必要性

目標として、高齢者のホームレス再発化を予防するソーシャルキャピタルを探究することを掲げている。その目標へ向けて、日本のホームレスの高齢者の生活を、解明に適した事例として取り上げている。

欧米諸国では、青少年や女性、家族、成人、高齢者と多様なホームレスが、点的に存在している。しかし、日本では、ホームレス人口の大半を単身中高年男性が占めている。さらに彼らの多くは、特定の地域において独特なコミュニティのなかで生活している。

こうしたことから、ホームレス高齢者の生活について研究するうえで、日本を事例として取り上げることは、学術的な意義がある。

1-2. 研究の目的とリサーチ・クエスチョン

上記の研究目標を目指して、事例研究を用いながら、次の研究の目的を達成しようとしている。

日本のホームレスの高齢者の生活には、どのような人間関係とコミュニティが存在しているのかを解明することを目的としている。

日本のホームレス高齢者の生活において、いったんはホームレス状況から脱したのに、もう一度ホームレス化するというような「再発」について、それを予防すると考えられる要因を抽出することを目的としている。そこでは、ソーシャルキャピタルという概念的枠組みが用いられている。

そして、以上のような研究目的を達成するために、次のようなリサーチクエスチョンを問うている。

(1) ホームレスから脱して再定住した高齢者の生活の過程はどうであったのか。とくに人間関係とコミュニティとの関係で、どのような特徴があるか。

(2) 再定住した高齢者たちの課題として、何が浮かび上がったのか。

1-3. 研究の方法と手続き

研究対象として、日本の山谷および釜ヶ崎で生活するホームレスから脱した高齢者と、ホームレスを継続している高齢者を選んでいる。

山谷と釜ヶ崎は日雇い労働者が集積する寄せ場(労働市場)と、歴史的に簡易宿泊所が集中する街の機能をもつ土地である。これらの土地で暮らす人びとの生活の実態を探るために、フィールド調査を実施した。そこでは、対面による聞き取りや調査票を使った研究手法を用いた。

1-4. リサーチ・クエスチョンへの回答と研究の意義

(1) 家族、親族、友人のような強い紐帯が存在していなかった。ホームレスから脱した高齢者も、ホームレスを継続している高齢者も、人間関係の脆弱性を抱えて生きている実態が浮き彫りになった。

(2) 家族とのつながりをもたずとも、ホームレス高齢者同士の間人間関係は、感情を共有することや、他者とのつながりを実感できるものであることが明らか

かになった。同じ境遇にある人との関係、困った時に相談できる人との関係、信頼を寄せられる人との関係、気心の知れた人との関係は、ホームレス再発を予防することにポジティブに影響を与えていることが解明された。

(3) 他方、路上生活をしていた時の知り合いや、元野宿仲間との関係は、ホームレス再発を予防することに、ネガティブに影響を与えることが解明された。

(4) 自己決定が尊重され、主体者になることができるコミュニティ、帰属意識が形成されるコミュニティ、同質的な社会的ネットワークを包摂するコミュニティが、ホームレス再発を予防することにポジティブに影響を与えることが解明された。

(5) 他方、集いの場やボランティア活動に参加しない人や、したくない人も多くいる。こうした、持て余した時間をギャンブルなどで費やすしか術がない人びとは、ホームレスが再発しやすい、と結論づけられた。

2. 本論文の構成と概要

第1章 「序論」は、まず、背景として、調査を実施した地域の歴史と特徴を説明した。そして、研究の目的と、研究上の問いかけを説明した(1-12 頁)。

第2章 「文献レビュー」では、関連した先行研究をまとめている。なぜホームレス再発を予防することが重要なのか、ホームレスの人間関係とコミュニティに関する視点、欧米と日本とのホームレスの特徴の違い、ホームレスの発生要因・再発要因・対策、ホームレス予防の理論的枠組み、などの領域に分けて、先行する研究における議論を整理している。そこでは、これまでに何が解明されているのか、何が研究課題として残っているのかなど、についても触れている(12-40 頁)。

第3章 「研究手法」では、研究手法、データ資料、データ分析について説明している(41-46 頁)。

第4章 「ホームレス再発予防の要素」では、ケースの概要、人間関係、コミュニティといった要素について論じている(47-60 頁)。

第5章 「安定した住居生活を維持する要素—人間関係」では、ホームレス高齢者の生活実態調査、安定した住居へ移行した時期別の高齢者の生活、質的調査によるホームレス高齢者の人間関係について論じている(61-100 頁)。

第6章 「安定した住居生活を維持する要素—コミュニティ」では、ホームレス高齢者の生活状況とコミュニティ、安定した住居へ移行した時期別の高齢者のコミュニティ、質的調査によるホームレス高齢者のコミュニティについて論じている(101-123 頁)。

第7章 「総括」では、それまでの議論をまとめている。また、「おわりに」では、研究への貢献と、今後の課題について、整理している(124-135 頁)。

3. 口述試験での質疑応答

本論文審査委員会は、申請者から提出された学位請求論文を査読し、2022

年5月9日に約2時間にわたり口述試験を実施した。主たる論点は以下のとおりである。

- 山谷や釜ヶ崎に関する基本的な説明は、背景に移すべきである。
- ホームレスの定義は、「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」(第2条)に規定する定義を使った方が、分かりやすい。
- 表1に最新の全国調査が含まれていないので、2021年の調査結果を加えた方がよい。
- 量的調査については、サンプル数の少なさや、バイアスがある可能性など、調査の限界について、注釈をつけておくべきである。
- 質的調査によって明らかになった課題、ホームレス再発にポジティブに働く要素や、ネガティブに働く要素について、もう少し明確に論じるべきである。

口述試験では、指摘や質問に関して適切に回答が示され、修正すべき点については、最終提出までに適切に修正することとなった。後日、審査委員会は、修正意見とそれへの対応を整理した表とともに、論文が適切に修正なされていることを確認した。

4. 評価と審査結果

本論文では、ホームレス高齢者に着目し、その生活関係やコミュニティについて、日本の山谷と釜ヶ崎をフィールドとして、実証的な研究をおこなった。

山谷や釜ヶ崎を長期間にわたり何度も訪問し、現地において関係者の信頼を得ながら、フィールド調査を進めた。とくに、ホームレス高齢者の生活関係やコミュニティを調べながら、ホームレスから脱却しても再度ホームレス化する要因を追求しようとしたことは、本論文の独創的な点である。困難な研究を成し遂げたことから得られた貴重な成果が、本論文には盛られている。

他方、さらなる改善へ向けて、いくつかの提案もあった。第一に、題目に含まれるソーシャルキャピタルという用語について、目次を見ると、どこで論じているか分かるよう表記した方が親切である。第二に、ホームレスの定義が書かれた「用語の定義」は先行研究のレビューの前がいいのではないか。第三に、ホームレスの定義と、一時保護施設などに入った人を含めた「ホームレス群」との関係性が分かりにくい。第四に、自立支援センターの記述をアップデートした方がよい。これらの提言は、あくまで詳細な部分における、今後の研究課題としておこなわれた。

口述試験の内容を踏まえ、論文に関して慎重かつ総合的に審査を行なった結果、博士学位請求論文としての水準を十分満たしているものと判断し、これを受理することに全委員が合意した。

5. 審査結果: 合格

申請者名： 岡本 菜穂子

博士論文審査委員会

主査 Chief Examiner:

氏名 Name: 勝間 靖 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: Ph.D. (Development) 取得大学 Conferred by: ウィスコンシン大学マディソン校

専門分野 Specialty: 開発研究、国際人権論、人間の安全保障

副査(筆頭) Head Deputy Examiner:

氏名 Name: 黒田 一雄 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: Ph.D. (Education) 取得大学 Conferred by: コーネル大学

専門分野 Specialty: 比較国際教育学、教育政策、国際教育開発論

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: 後藤 広史 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 立教大学

職位 Title: 教授

学位 Degree: 博士(社会福祉学) 取得大学 Conferred by: 東洋大学

専門分野 Specialty: 社会福祉学、貧困・生活困窮者、ホームレス比較研究

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: ファーラー グラシア (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: Ph.D. (Sociology) 取得大学 Conferred by: シカゴ大学

専門分野 Specialty: 国際移動、社会階層論、グローバリゼーション

2023年 1月16日